いわき福音
第20号
2011.10.10
発行責任：いわき福音協会広報委員会　☎0246-23-1903
住　　所：福島県いわき市平上平窪字羽黒40-44

感謝と共に
―多くの方々に支えられて―

社会福祉法人いわき福音協会
理事長　海野　洋

この度の震災は想像を越えた災害となった。

異様な地鳴りの瞬間、突き上げる凄まじい振動が襲い、修羅場となった幾日かは混乱と不安に立ち往生するばかりであった。幸い、施設利用者の無事が確認され、建物設備の一部に損壊はあったにせよ深刻な状況にはならなかった。

だが思いがけず、原発事故での放射能漏れは多くの住民の理性を奪った。風評は次々と拡がり周りから人も車も消え夜を不気味さに変えた。見えぬ放射能と言うものが、これほど人に恐怖を与え、生活を脅かすものとは考えられなかった。

私達法人にしても、いざというときには数百人に及ぶ利用者の移動の検討が迫られていた。緊急時避難準備区域外とは言え、この数キロ先の法人にとって懸念も多く、いつ区域内発令があってもおかしくない状況にあった。

法人の無力さを思い知らされつつ、避難先への確保について、各施設は関係機関との調整を図った。特に、深い医療抜きには考えられない肢体不自由児や重症心身障害児（者）の避難について、懸命に奔走して頂いた「全国肢体不自由児施設運営協議会」また「日本重症児福祉協会」の方々、そして受入に応えて下さった各施設の皆さんを始め、この調整にお骨折りを頂いた厚労省障害保健福祉部の皆様には、心から御礼と感謝を申し上げたい。

一方で、街に生活拠点を置くグループホーム（三十ヶ所）に分散する百数十名の方々の状況把握には厳しいものがあった。個々の世話人は自宅の被災に動けず、電話の不通や道路の遮断から、限られた職員での対応は困難であった。更にライフラインはもとより、間断ない余震から生活の継続は不可能となった。そのため通所事業の一旦休止から空き室の利用となったが、生活水やトイレの不自由さと共に雑魚寝に耐える日が続いた。

この現状のSOSに素早くしかも深刻に応えて下さったのが、「日本グループホーム学会（代表・山田優氏）」であった。GH学会は、先ず長野県西駒郷に七十数名の方々の受入れについて、長野県社会福祉事業団を中心に調整して下さった。様々な関係団体・事業所、そして全国から駆け付けたボランティアを含め、細心の準備をして下さった長野県や西駒郷の方々には感謝の言葉もない。

また、いわき市の要請に神奈川県が応えて頂いたことから、実習船での救援輸送となり、その後の追加者を含めた五十数名が神奈川県内四か所に避難となった。これに対応して下さった「YMCA横浜」の皆さん、そしてGH学会の調整に、困難を厭わず受入れて下さったNPO法人「よろずやたきの会」の方々のご配慮には、御礼の言葉もなく、一つ一つ心を頂きましたことに厚く御礼を申し上げます。

改めて、ご努力下さった神奈川県・長野県・福島県、地元のいわき市、そして物心両面にてご支援を下さった多くの皆様に、この紙面を通して心から感謝と御礼を申し上げます。

現在、避難先から戻った方々も元気に、夫々の道に歩んでおりますのでご安心下さい。原発も依然として収束は見えませんが、希望をもって明日を迎えたいと思っております。

どうぞ今後ともご支援ご協力を賜りますようお願いし感謝のご挨拶と致します。

西駒郷支援スタッフの皆さんありがとうございます。

ありがとうございました＆よろしくお願い致します

元福島整肢療護園長柳沢俊郎氏が三月三十一日付をもちまして理事・評議員を退任されました。当法人の運営に携わりご尽力下さいましたこと心から感謝申し上げます。新天地でのさらなるご活躍をお祈り致します。

そして、新たに四月一日付で福島整肢療護園園長に着任しました渡邉信雄氏が理事・評議員に就任しましたのでご紹介致します。

理事・評議員
渡邉　信雄

大震災の混乱が続くこの四月から、福島整肢療護園園長に着任し、併せて理事、評議員を拝命しました。宮城県出身ですが先輩に誘われて昭和四五年から磐城共立病院小児科に勤務し、三月の定年まで四一年間小児医療・保健に関わってきました。平成二年からはいわき市医師会小児保健担当理事も務め行政や関連分野の皆様といわき市の子育て、親育てにも参画してきました。

共立病院での診療の主体は健常者が急変した急性期医療でした。肢体不自由児、重症心身障害児を療育する療護園は私には新分野です。いわき福音協会は地域の障害者とその家族を支援する地域最大の組織と理解しています。我が国の社会保障制度の将来は不透明ですが、障害は自ら望んだものではなく、天から与えられたものと考えています。

福音協会の各施設と連携し、多くの優秀なスタッフと共に聖書的理念を学びながら、微力を尽くしたいと思います。

大幅な人事異動を行いました

震災の影響で四月に実施する予定であった人事異動を七月一日付で実施しました。新しい感覚でそれぞれの施設の経営を担当しますのでよろしくお願いします。

●管理者のみ紹介●

カナン村所長：岡部　明（前野の花ホーム所長）
大河内記念館長兼務
野の花ホーム所長：佐藤　護（前光の家所長）
光の家所長：甲高和江（前はまぎく荘次長）
はまぎく荘所長：涌井常吉（前カナン村所長）
はまゆう所長兼務
ふくいん所長：庄司博文（前はまぎく荘・はまゆう所長）
併せてシャローム・古館福祉ホーム等の所長

●新　設●

法人本部事業部部長：本田隆光（前ふくいん・シャローム・古館福祉ホーム等の所長）
法人本部総務部部長（兼務）：藁谷健一（事務局長）

IT講習会

当法人では、本年度も福島県立テクノアカデミー浜の委託を受け、障がい者委託訓練事業（パソコン基礎科）をカナン村にて開講しております。期間は八月十八日から十一月十七日までの三ヶ月間で、早期就職を目標として、パソコン全般、Word, Excelの基本操作等及びビジネスマナーの習得を支援しております。なお、今年度の受講生は八名となっております。

IT講習会開講式

平成22年度の事業報告及び財務報告がまとまりましたので掲示します。（別添）なお、当法人のホームページにも掲載しておりますのでご利用ください。

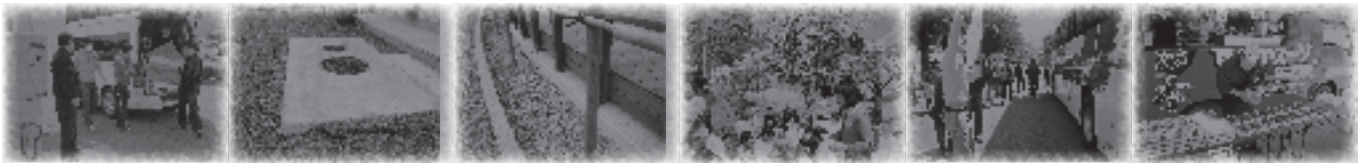
いわき福音協会のURLは、
http://i-fukuin.comです。

いわき福音協会　検索

東日本大震災　法人の動き

平成23年3月11日　午後2時46分に発生しました『東日本大震災』は岩手・宮城・福島の3県を中心とした広範囲に甚大な被害をもたらしました。また、福島県は原発事故により放射能汚染問題は未だ収束されていません。沿岸部では大津波により多くの尊い命が奪われました。震災により亡くなられた方々にご冥福を心よりお祈り致します。

当法人でもライフラインの断絶（断水）等により県外避難を余儀なくされました。当日から再開までを報告します。



法人内集中支援

障害者総合生活支援センター　ふくいん

三月十一日の地震は、日中の時間に起きたために救われたことが沢山ありました。第一に、目で状況確認ができました。第二に、日中活動に参加中のため、不安定にならずに過ごせました。第三に、安否確認のため各ホームを巡回する時間には、職員・世話人が落ち着いて対応することができたなどなど…。

誰もが経験したことのないこの震災の対応は、とても大変な事ばかりでした。食器棚が倒れ、断水となり、やむことのない余震から「ホームに居たくない」とホーム利用者が支援センターへ世話人付添で集まって来ました。サブセンターが生活介護事業所ポポロ内にあった事が幸いして、ホームでの生活に不安を感じる方が集合し、一夜を過ごしました。日中活動事業所へ泊まった方との連絡がとれず、全員の安否確認が出来たのは、十時過ぎでした。翌日からのホーム巡回もガソリンが不足となり法人の各施設への受入れと通所施設や本部会議室への集団避難生活でしたが、始めは、修学旅行気分で元気一杯に過ごしていました。原発事故で外出禁止となり、病院や薬局と一般の方々の避難が相次ぎグループホームの地域生活者が地域へ戻る事には、不都合な地域の環境になりました。

県外への避難についても集団支援の限界、断水・原発事故により先が見えない等によって、県外避難を決めました。グループホーム学会の協力を得て、神奈川県内の四事業所と長野県西駒郷と県外避難希望者が全員無事に避難できたのは、三月二十四日でした。体力のない方や体調不良の方は、施設への避難を続け、家族と一緒に過ごすなど、本人の希望に添った避難生活を対応できたのは、法人の地域生活者への理解と受け入れの協力、全国の皆様からの励まし、何よりも行政の枠を越えてご尽力頂きました方々のおかげです。紙面上ですが、お礼と感謝を申しあげます。本当に「支えてくれて」ありがとうございました。

平三中避難所

地震後、地域生活者の安否確認を行い全員の無事を確認します。同日、生活支援登録者六名が法人の施設に避難、長期滞在できないため二日後自宅に戻りました。十四日、ライフラインの断絶や食糧調達の困難さから、市の障害福祉課に登録者について団体での避難所利用を打診し、避難所を希望した二十三名（単身者・家族と同居していない世帯等）が平三中の避難所を利用しました。職員がローテーションを組んで支援にあたりました。

十六日、登録者二名とその子ども達四名と職員一名同行で県外に避難しました。

神奈川での避難受け入れもあり、避難の意思確認を行った後、二十日、グループホーム利用者を含め三十三名が練習船で神奈川県へ避難しました。法人内利用者が含まれているため、同法人の職員三名が同行しました。

神奈川県

県立ひばりが丘
横須賀老人ホーム
三浦しらとり園

三月二十日朝、小名浜埠頭には、神奈川県立水産高校の実習船『湘南丸』それに福島丸がつながれ私達を待っていてくれました。あたたかい食事・入浴が出来ると旅立ちに期待し、不安はほとんどありませんでした。昼食は予想通り温かいカレー。ほとんどの

方がおかわりをし、食欲旺盛でした。数時間後、船酔いに襲われるとは誰も考えていませんでした。とにかく苦しく、吐く利用者の介護は船員さんにしてもらい夜を明かします。二十一日荒天の中三崎漁港に帰港しました。強い雨が降りつけましたが三十三人は船員さんの手をかりて下船、避難先である「県立ひばりが丘」「横須賀老人ホーム」「三浦しらとり園」に迎えのバスに乗り神奈川での避難生活が始まります。ボランティアの方々の支援で外出・余暇活動を企画していただきました。一週間を過ごしたころ、利用者からの相談・悩みで「いつ戻れるの」「仕事がしたい」等。その対応に苦慮しました。だから戻れる日が決まった時には嬉しかったです。いろいろ配慮していただいた神奈川の支援者の方々には感謝の気持ちでいっぱいです。窮屈な生活の中で楽しく過ごせたことがなにより、ありがとうございました。

神奈川県と長野県の施設で、避難を受け入れて頂けることとなりました。神奈川への第一次避難は、小名浜港から船での移動となりました。私は彼らが就労していた企業とのやり取りなどの業務がありいわきに残りましたが、他の職員が付き添いました。二十四時間以上の船旅です。船は大変揺れ、利用者だけではなく、職員も船酔いにやられました。ある職員は、あまりのつらさに泣きました。利用者を気にかける余裕は皆無でした。そのため、同船していた医師、看護師の方に頼り切りになってしまいました。感謝の言葉もありません。

神奈川班の出発

その後、遅ればせながら、私も避難先のひとつ、横須賀の老人ホームへと赴き、前任の職員と交代しました。その施設には、温かい食事を提供して頂きました。本人達にしてみれば、久しぶりの人間らしい食事であったでしょう。そして風呂につかり、体を癒す喜びも思い出させて頂きました。皆、テレビの地震速報には注意を向けていましたが、余震の恐怖からも解放され、元気を取り戻していきました。「いつになったら帰れるのかな」と不安をこぼすこともありましたが、そこでの生活は、避難所での生活にしてみれば、比べ物にならないほど快適であったことでしょう。また、なるべく震災前と同じような生活ができるよう、日中活動の場も用意して頂きました。自分たちの業務だけでもお忙しかったでしょうに、この恩は感謝してもしきれません。見知らぬ土地、見知らぬ施設での支援を行えたのは、私たちの力ではなく、老人ホームの職員の方々や、学生ボランティアの助力あってこそだと、心から思います。

平塚市での生活

三月二十四日三時頃バスが到着。大通りから裏に入った所へ荷物を持って移動すると、アパートに囲まれた一角にある、『よろずやたきの会』。今日から生活をするのが目の前にずらっと並んだ1DKのアパートでした。布団が運び込まれ、早速部屋の割りふりをし、利用者を移動させます。ホッとする間もなく各部屋から電気が付かない、風呂のお湯が熱くならない、ユニットバスに慣れてないせいか床を水浸しにする方が続出することに。何日かぶりにお風呂に入り、さっぱりとして、みんなそろっての夕食を頂き利用者の顔にも笑顔が見られました。

洗濯機、テレビなど次々に用意して頂き、一人でも買い物に行けるようになったのが一週間が過ぎた頃。作業所実習が始まり、職員もこの頃から日中一息付く時間も出来、慣れてきた頃に、問題も何件かありましたが、今振り返ると別世界での十九日間の生活だったように思います。

長野県　西駒郷

三月二十四日。出発してから八時間後の十九時十分、利用者七十四名と職員五名は、地元のテレビクルーや新聞社のカメラマンがシャッターを切る乾いた音と青白い光の中、多くの西駒郷関係者に歓迎される形で現地入りした。

長野での避難生活はおよそひと月に及びました。雄々しく聳えるアルプス山脈を背に、温かい食事に温かいお風呂、地元美容師の方々による髪の手入れ、西駒郷の利用者と共同での園芸作業、育成会から頂いたタラの芽の加工、こまくさ・こぶしの湯への招待、明治亭ソースかつ丼の提供、山田優さんが栽培する葡萄園の手伝い、喧嘩をしなが

満開の桜の木の下で

長野班の出発

らも毎日のようにグラウンドに立つ野球メンバー達。満開の桜の下での花見等々……。

西駒郷での生活は、被災者という立場にあって、いわきを恋しがりながらも不思議と悲壮感はあまり感じられませんでした。それは、西駒郷のスタッフの方々や全国各地から来て下さった多くのボランティアの方々の支援があったからに他なりません。いつの日か皆で再びこの地を訪れ、恩返しができることを切に願います。

西駒郷にて（しらかば寮）

職員、関係機関の皆さんに温かく迎えて頂き、私達女子利用者十七名は少し離れた別の寮での避難生活が始まりました。いわきでのライフラインの途絶えた二週間の避難生活が嘘のような、南アルプスの美しさを望む自然に囲まれた環境で、余震のない静かな落ち着いた生活が出来るようになり、一人一人が心の落ち着きを取り戻すことができるようになりました。温泉への招待、駒ヶ根名物のソースカツ丼の提供等々、各事業所からのボランティアの方々の支援を受け、毎日の生活を送りながら、いつの間にか桜の花がほころび始める季節となり、お花見をしながら寮生との交流会での草餅作りなどたくさんの行事に参加させて頂きました。また、医療面においても西駒郷の看護師の方々、斉藤医院のスタッフの皆さんの温かい支援に感謝の気持ちでいっぱいです。

慰問を受けました　カツのおいしかったこと

ソフトボールチームをつくりました

お世話になった施設の障子はり

戻りの支援

相談支援事業所　ふくいん

県外へ避難したことで、地震や津波の被害、原発の不安、日常的な不便さからは遠ざかり、精神的には落ち着きを取り戻すことができたと思われました。そのような環境から、市内におけるライフラインの復旧や就業先の仕事再開等により、帰省の判断が求められ、不安を持ちながらもおのおのが帰省の決断をしました。同時にPTSDなどに備え、本人の声に耳を傾け、安心できる支援が必要であろうとの指摘をいただきました。案の定、払拭されない放射能への不安や余震の恐怖などから、再度いわきを離れたいという希望や、アパートの一人暮らしの不安感が増大し頻繁に電話を掛けたり、幻聴と思われることを言い始めたりする人が出てきました。個々に対して傾聴を心がけ、希望を確認するなかで県外への引っ越しやグループホーム利用の要望が出てきました。そのため、早めに安心した環境での生活を取り戻すために関係機関との連絡・調整を図り支援を行いました。

職員も地震津波の被害の甚大さ、原発の不安、仕事継続の責任などの重圧から精神的に不安定になっている中、〝がんばらなくていいよ〟と自分たちの気持ちに傾聴し共感してくれる人の必要がありました。そのような時に、京都の支援員がセンターに来て下さり真摯にかかわりをもって下さったことで、徐々に緊張から解き放たれ、業務の継続が図られています。互いに弱い部分を認め、支えられながら今に至っています。

別れの朝　いざいわきへ

迎え入れ

避難先から戻る日が決まり、「部屋をきれいに掃除して迎えたい」と所長、支援者からの話がありました。避難先の利用者の本人の承諾を得て、三月下旬から四月上旬まで、世話人と職員で二十八ホーム全ての掃除を行いました。

食器棚が倒れていたり、食器が割れ散乱していたり、蛍光灯が傾いていたりと、改めて地震の凄さを感じながらの掃除でした。トイレ・浴室の掃除をし冷蔵庫の食材を片付け、布団を運び、大量に出たゴミを分別処分し、全てのホームの掃除を終えた時、安堵感と達成感で一杯でした。

利用者の部屋の掃除は、日頃中々関われない部分もあり、改めて一緒に掃除する機会を持つ事の大切さを痛感させられました。

御協力頂きました世話人の方々には、改めて御礼申し上げます。

※利用者の居室は本人の承諾を得て行いました。

各施設・事業所の 3・11 震災当日からの動き

肢体不自由児・重症心身障害児施設 福島整肢療護園

未曾有の大震災から、早や半年が経過しようとしています。この間様々な事態が発生し、未だに頭の中で整理出来ていない事がありますが、ここで一旦立ち止まって当時を振り返ってみます。

当園では、震災当日の時間帯は病棟では丁度入浴の時間帯でした。今まで経験した事のない凄まじい揺れに対し、私たちスタッフ一同は成す術もなく、ただ利用児（者）を怪我から守る事で精一杯でした。幸い、利用児（者）に健康被害もなく、また建物も致命的な被害を受ける事なく乗り切る事ができた事が不幸中の幸いでした。

しかしその直後から、長期にわたる断水、また思いもよらなかった原発事故が発生し、施設の機能は完全に麻痺してしまいました。

原発事故発生後には、児童の健康面を第一に考え、県内外の同種の施設（肢体及び重心施設）に十六名を一時避難させました。現時点（八月二十九日現在）では二名が今もって避難中ではありますが、それ以外の子どもたちは皆元気に戻って来た事で、震災前の「りょうご園」にほぼ戻りつつあります。

お世話になりました東日本各地の施設関係者の皆様には、この紙面をお借りして深く感謝を申し上げますと共に、平穏な日常を送れる幸せを改めて噛み締めております。

3月22日　東日本各地の施設へ一時避難の様子

障害者支援施設 カナン村

東日本大震災が発生した時間、カナン村では利用者の健康診断を終えて、いわき健康管理センターから戻って一息ついている時間でした。

水道は地震後から三月二十六日まで断水しましたが、幸い電気の供給はされていたため今どのような状況になっているのかはテレビやラジオを通じて知ることができました。

その結果、福島第一原発の状況を考え、利用者の家族や身元引受人に連絡を取りました。そして、半数以上の利用者には自宅待機をして頂きました。

家族の送迎で施設から遠方へ泣きながら避難していく利用者達を見て、「みんなこのままカナン村に戻ってこられないのではないだろうか…」と、とても不安に感じていたのではないかと思います。その様子は、改めて自分たちが未曽有の大災害の被災者になっているのだなぁと実感させられるものでした。

幸い最悪の事態にはならず四月の上旬から除々に利用者達も戻ってきて杞憂に終わったので良かったと思います。震災の最中、数多くの方々に支援して頂き、そのおかげで利用者達に（少々の不便はあったと思いますが）サービスを提供し続けることができました。御協力いただいた皆さま、本当にありがとうございました。

障害者支援施設 はまぎく荘

震災当日、午後二時四十六分、はまぎく荘は、利用者の入浴の時間が始まった時です。日頃、避難訓練をしているせいか、動揺もなく、むしろ職員の方が今までに体験したことのない地震に緊迫感が漂っていました。三日後からは、各棟当番二人体制で利用者の安全第一に努め、そんな中グループホームの利用者十三名と在宅で生活介護を利用している利用者と家族三名を緊急で受け入れ、支援にあたりました。余震と地震による原発事故が私たちの不安をかきたて、避難区域になった場合を想定し避難する場所の確保を考えながら、原発の収束もないまま、四月十一日から通常の日課を再開しました。

障害者支援施設 はまなす荘

大震災では、利用者には被害がありませんでしたが、利用者の御家族、職員には被災された方々がおりました。

また、はまなす荘は、浄化槽が壊れ仮復旧で急場をしのいできましたが、六月末に完全復旧し、以前の生活にもどっています。

あれから六ヶ月が過ぎ、皆で力を合わせ困難な時期を乗り越えて、これから、より充実した生活支援をと考えていますが、気がかりなのは〝原

浄化槽の地割れ

発〟です。このまま、収束に向かってくれればいいのですが、まだ、不安な気持ちも残り、万一に備えて避難の準備も検討しているのが現状です。

ウッドデッキ周辺の地割れ

宿泊型自立訓練事業所 はまゆう

未曾有の震災に見舞われ、とっさに利用者の安否が頭を過りました。連絡を取ろうにもすべての通信機器が不能となったなか、二十名の利用者のうち十九名はすぐに無事の確認が取れましたが、一名の確認がなかなか取れず、事業所から無事との連絡が入るまで不安な時間を過ごしたことが思い出されます。

家族と共に県外に避難した利用者を含め三名が帰省、緊急で地域生活者十三名の受け入れをしましたが、利用者同士のトラブルもなく、体調不良を訴えることもなく、余震があっても動じることなく過し、みなさんが避難のために移動したときには寂しさを感じ、わずか十日程の共同生活でしたがお互い慣れ親しんでいたのかと感じました。

各事業所から徐々に再開との連絡が入った時は、単調な毎日にストレスを感じ始めていた利用者には、仕事より外の空気に触れることへの喜びのほうが強かったように思われました。

今回の震災では、たくさんの教訓を得ました。例を挙げればきりがありませんが、今後の支援に生かせるよう改めてしていきたいと思っています。福島県のみならず被災した地域の復興を願うとともに、利用者全員が健やかで以前と変わりない日々を過ごせることに感謝しているところです。

生活介護事業所 ポポロ

地震当日、ポポロも強い揺れに利用者、職員ともども何とか駐車場に出るのがやっと、という状況でした。併設するふくいんより、グループホームの被害がひどく利用者が戻れず、また他事業所より送迎される利用者が続々とポポロに集まり、一時的に地域に住む利用者達の避難所となりました。入所事業所より布団を運び、約四十人を数える方が寝泊まりしていました。地震後より断水になり、翌日からは利用者、職員が力をあわせ飲み水、トイレ用水の運搬が続きました。三月十五日光の家が総合避難所となり、利用者たちはポポロより移動していきました。職員は他事業所のサポートに入り、水の運搬等を手伝いました。避難する方もいました。

三月二十五日、下平窪地区にて断水が解除となり、ポポロも再活動に向け片付・準備を始め、四月一日より通常営業を再開することができました。

保育所 小島保育園

午後二時四十六分大きな揺れを感じた時、園内は、午睡明けで子どもたちが布団から起きだして来た時でした。多くの子が動揺しながらも職員の指示に従い、午後六時三十分には、園児全員保護者と共に無事帰宅することができました。

ロッカーなどは、地震対策で壁に止めてあったため大きな損害もなく、翌日には片付きましたが、断水のため一週間ほど休園しました。

物流が止まったため、給食なしでの開園をし、四月十一日より給食を再開し、保育時間も十二時間の通常保育となりました。

就労移行・就労継続支援A型・B型事業所 つばさ・かがやき

現場で作業中に地震発生しました。利用者全員無事を確認し、早めに帰宅させました。ライフライン停止のため、回復するまで事業所を休止としました。その間、職員は入所施設の給水活動支援と夏野菜の定植を行いました。

かがやきは三月二十八日からはまゆう利用者を中心に、事業再開しました。四月十八日には各避難先から利用者が戻り、ほぼ全員揃いました。春野菜は放射能により全量廃棄処分としました。風評被害により野菜の低価格が続いているため、作付け種類を増やし昨年並みに戻しました。

つばさの弁当部も三月二十八日から徐々に営業を開始するが三月分売上は先月の約六十％減になりました。本格事業再開は利用者が避難先から戻った四月十八日になりました。売上は昨年並みに回復しつつあります。

つばさ就労移行は震災の影響により内定取り消し解雇等が続きました。現在も求人が少なく、まだ一名が内定しただけです。

生活介護事業所 光の家

地震発生当時光の家は帰りの送迎前で二十二名が利用中でありました。全員の無事を確認し利用者宅への送迎を開始しました。当日夜間には野の花ホーム利用者や一部光の家利用者の避難所となりました。

翌日より光の家の営業は停止となり、利用者へは全員の安否確認を電話と訪問にて実施し、生活状況の確認、物資の提供、ショートステイの利用手続き、生活情報の提供等を行いました。

一方事業所内へは主にグループホーム入居者が百数十名避難し（～二十四日まで）、光の家の送迎車両はフル回転で物資等の運搬を行い避難者の生活を支えました。また光の家スタッフは野の花ホーム入居者やグループホームからの避難者のケアに当たりました。

二十八日光の家の営業再開。避難していた利用者らも次第に戻り始め、現在に至ります。

職員の震災状況

被害程度	件数
全壊	8
内流出によるもの	6
大規模全壊	1
大規模半壊	5
半壊	30
一部損壊	25
床上浸水	1
床下浸水	0
地盤沈下	1
計	71

※ダブるものは主のものをカウント

障害者支援施設 野の花ホーム

グォーン、ガチャンガチャン。揺れる床、たわむ天井。その時、男性利用者は入浴中。ほとんどの女性利用者はベッド静養中。先ずは食堂に集まり、余震がある程度落ち着いてからは、小雪が舞っている玄関前に避難。まだまだ続いている大きな余震と寒さ…。

暖房が使えなくなったその晩は、光の家で過ごしました。翌日は、大型ストーブと灯油を調達、飲料水やトイレの水を運び、ホームへ戻りました。その間、ヘルパーの確保が困難な単身生活者のショートステイ受け入れ等……。

通所系事業所の職員やボランティアの方々の協力を得て急場を凌ぐことができました。ありがとうございました。

救援物資届く

当法人では、法人職員有志から受け付けた四一九、一六四円を、義援金としていわき市へ寄附しました。引き続き施設のお祭り等で集まりました募金もいわき市へ寄附する予定です。

東日本大震災における法人内施設・事業所の被害状況報告（建物・設備等）

施設・事業所名	被害状況
小島保育園	２階建と１階建部分のつなぎ目の亀裂、テラス部分の亀裂、木造部分の基礎部分の亀裂等
福島整肢療護園	重心棟外壁亀裂、リハ棟照明器具用アングル接続部の剥がれ、エアコン室外機の転倒、オートクレーブ傾斜等
カナン村	建物の廊下亀裂、タイル剥離、ボイラー給油管破裂、エアコン吹出口の落下等
野の花ホーム	給湯ボイラー配管破損、玄関前、利用者居室ベランダから庭へのスロープ部の地盤沈下、電源引き込み線支柱破損等
はまなす荘	浄化槽関係の破損等、建物外構破損等
はまぎく荘	高架水槽（2t）亀裂、自活訓練棟周辺地盤沈下による建物等の被害、体育館地盤沈下による排水路の亀裂沈下等、作業棟天井板落下・電灯器具浮遊等
はまゆう	ボイラー配管破損、床下陥没、壁亀裂、屋根剥離等
かがやき	浄化槽配水管破損等
古館福祉ホーム	建物内壁の亀裂・つなぎ目の拡大等、ボイラー配管破損、浄化槽破損等
光の家	建物の亀裂、地盤沈下等
地域交流センター	浄化槽周囲・光の家の建物との接続部の地盤沈下、舗装道路の亀裂等

法人被害集計総額は、概算で約５，３６０万円位の被害となりました。

施設・事業所コーナー

小島保育園

今回の震災で被災された方には、心よりお見舞い申し上げます。

お陰様で小島保育園は、地震による建物の破損も大きくなく、年度当初より保育を行うことができました。

ただ、原発事故の影響が大きく、本園の特徴でもあった外遊びが大きく減少しました。

生活の中心が外遊びでしたので、子どもたちに与える影響は大きいものでした。食欲、睡眠のリズムなどいろいろなところに変化が出ています。

そんな時多方面から、室内遊びの遊具が支援されました。

教材を扱う会社からは、絵本やカルタやカードゲーム。

クレヨンハウスからは、全国の方からの寄付の絵本にたくさんのメッセージ付き。

真言宗の青年連盟からは、ヒノキでつくられたつみき百二十八ピース入りを十箱。

子どもたちは、たくさん外では遊べない分、全国から送られた室内遊具・玩具で今を精一杯楽しんでいます。

一日も早い原発事故の収束と安全な空間線量になるための除染などの対策を望んでいます。

カナン村

七月一日の法人の人事異動に伴い、施設長をはじめ五人のニューフェイスがカナン村に異動となりました。新メンバーと協力し、これからも利用者の想いに応えていけるよう職員一丸となって頑張っていきたいと思います。

三月十一日の東日本大震災から、早くも半年が過ぎました。断続的に襲ってくる余震に身構えながら、各地の被害状況を伝えるニュースを利用者達と息をのみながら見ていたのがついこの間のように感じます。

カナン村でも震災以前の日課に戻りつつありますが、春のお花見も夏の野外食も食堂で行うなど、福島第一原子力発電所の事故は施設行事にも影響を及ぼしているのが現状です。

利用者たちの中にも依然不安を感じている方や、現在のあまり外に出られない状況が物足りない方が多くいる中でどのような支援をおこなっていけばよいのか、それはとても大きな課題であるように職員一同感じております。

●スポーツボランティア●

福島県障害者フライングディスク協会様のご協力で、毎月一回、カナン村の体育館にてスポーツボランティアを行なっていただいております。フライングディスクをはじめとして、ボッチャ、風船バレー、シッティングバレーなど、「楽しく体操ができる」と利用者たちにも大好評です。皆さんも参加して、普段の運動不足を解消してみてはいかがですか？

フライングディスクの競技の様子

●ありがとう●

横浜ＹＭＣＡの田口様の仲介により、日本ＹＭＣＡ同盟様よりペットボトルの水１万本を頂きました。数値上は安全と言われている水道水ではありますが、やはり不安に感じる方もいるようで…安全でおいしい水でお茶が飲めると、福音協会一同、感謝しております。ありがとうございました！

水おいしく頂いてます

ポポロ

一月の開所よりはや九カ月が過ぎました。震災時の影響も少なからずありましたが、利用者、職員、ともにけがもなく、建物にも大きな破損もなく、平常通り営業を続けています。

ポポロは利用者に楽しみ、生きがいをもって活動していただくことを基本の考え方として、日々の支援を行っています。大きく分けて、午前中は作業的活動、午後は余暇的活動を行います。午前中の作業活動は、菓子作り、さき織り、紙すきの三つの活動より、利用者の希望、能力、相性を考え、やりたいことを優先して活動を行っています。利用者のみなさんは仕事と間違うほど熱心に行っており、出来る作品もどんどん立派なものになってきています。出来たお菓子や織物、ハガキはポポロの店舗にて販売をしております。興味がある方は是非立ち寄ってみて頂きたいと思います。午後の活動では創作活動、課外活動、レク活動を行います。震災以降、園芸作業等を行っていた課外活動は制限しながら行わざるを得ない状況ではありますが、法人で購入した線量計を用いながら、問題のない範囲で散歩などの活動を行っています。レク活動では利用者はカラオケ等を楽しみにしています。また、ボランティアの方々がいろいろな遊び道具を持ち寄ってくださるので、遊びの教室となる日も有ります。

生活介護の利用を考えている方、生活介護の現場を見てみたい方、是非一度見学をしてみてはいかがでしょうか。食事代のみでの体験利用も随時承っております。まずは、気軽にお立ち寄りください。スタッフ一同お待ちしております。

みはま祭

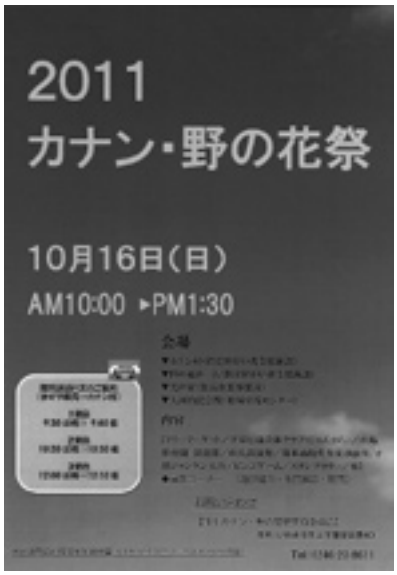
九月三日、第三十五回みはま福祉祭がはまなす荘にて開催されました。

今年は台風の影響もあり、時折雨が降ったりと天候に恵まれず、屋内での実施となりました。

今回は、はまなす荘が改築して初めてのみはま福祉祭り開催となり、多くのお客さんが来てくださいました。今年のテーマは『ふかめよう、こころの絆』という事で、テーマにそった装飾や被災地へのメッセージボードスペースを設ける等の取り組みも行いました。

また、今年も、アトラクション・模擬店・バザーや多くのボランティアの方々に支えられ、祭りを行うことが出来ました。ご参加本当にありがとうございました。今後ともご協力よろしくお願い致します。

カナン・野の花祭開催します



今年も恒例のカナン・野の花祭が、十月十六日（日）に行われます。小島保育園の鼓笛隊の演奏や湯本高校吹奏楽部の演奏を始め、地域の子供たちによる伝統芸能等の出し物が予定されています。会場では施設の作品の展示の他、模擬店やフリーマーケット等で地域の皆さんと交流します。皆さんどうぞおでかけ下さい。

感謝です!!

今回の震災時に、衆議院議員吉野正芳様はじめ福島県議会議員・いわき市議会議員の方々が激励のため来所いただきまして誠にありがとうございました。さらに、いわき市長様はじめ多くの関係機関・団体や全国の市民の方々からご支援・ご援助等いただきまして誠にありがとうございました。大変心強く震災復興に立ち向かうことができました。震災からは半年が過ぎ利用者の方々も普段の生活に戻り元気に過ごしております。ただ、原発の問題が今後どうなるか不安な点はありますが、諸問題にめげずに職員一同心を一つにして歩んでいきたいと思っております。

いままでご支援・ご援助下さいまして誠にありがとうございました。今日まで法人・施設にご支援・ご援助下さいました方々をご紹介させていただきます。

物心両面にわたるご支援・ご協力等誠にありがとうございます。

＊(社団)いわき青年会議所 様
＊(社団)豊田市シルバー人材センター 様
＊(社団)日本重症児福祉会 様
＊(社団)福島県社会福祉士会 様
＊(社団)福島県シルバー人材連合会 様
＊(財団)竹田総合病院 様
＊(財団)日本知的障害者福祉協会 様
＊(財団)日本YMCA同盟 様
＊(公益社団)日本フィランソロピー協会 様
＊(社福)あおぞら福祉会 様
＊(社福)あおぞら福祉会
知的障害者通所更生施設菊の里 様
＊(社福)会津療育会
会津若松市障がい者総合相談窓口 様
＊(社福)会津療育会 身体障害者支援施設アガッセ 様
＊(社福)旭川荘 様
＊(社福)旭川荘 旭川療育園 様
＊(社福)いわき市社会福祉協議会 様
＊(社福)大久保学園 様
＊(社福)岡山博愛会病院 老健施設みくに 様
＊(社福)恩賜財団静岡県済生会 静岡医療福祉センター 様
＊(社福)恩賜財団静岡県済生会
静岡医療福祉センター児童部 様
＊(社福)岡山博愛会病院 様
＊(社福)神奈川県社会福祉事業団 横須賀老人ホーム 様
＊(社福)川惣会 障害者支援施設しらゆり荘 様
＊(社福)川惣会 障害者支援施設しらうめ荘 様
＊(社福)桐生療育双葉会 両毛整肢療護園 様
＊(社福)清峰会 さざなみ学園 様
＊(社福)群馬県社会福祉事業団 様
＊(社福)群馬県社会福祉事業団
群馬県立身体障害者リハビリセンター 様
＊(社福)毛呂病院 光の家療育センター 様
＊(社福)けやきの村 様
＊(社福)敬山会 障害者支援施設たまりメリーホーム 様
＊(社福)健誠会 障害者支援施設
つくば総合福祉センター 様
＊(社福)こうほうえん 様
＊(社福)恒徳会 障害者支援施設桃香園 様
＊(社福)札幌この実会 様
＊(社福)相楽福祉会 様
＊(社福)埼玉療育友の会 埼玉療育園 様
＊(社福)三篠会 ソレイユ川崎 様
＊(社福)翔の会 様
＊(社福)翔の会 湘南鬼瓦 様
＊(社福)心愛会 様
＊(社福)心愛会 障がい福祉サービス事業所コパン 様
＊(社福)新城福祉会 レインボーはうす 様
＊(社福)信濃医療福祉センター 様
＊(社福)島根整肢学園 様
＊(社福)仁恵会 ユーカリの里 様
＊(社福)志成会 身体障害者療護施設
あさりファミリア 様
＊(社福)全国重症心身障害児(者)保健医療・福祉施設
あしかがの森 あしかがの森足利病院 様
＊(社福)全国社会福祉協議会総務部 様
＊(社福)全日本手をつなぐ育成会 様
＊(社福)千葉市手をつなぐ育成会 様
＊(社福)鶴風会 西多摩療育支援センター 様
＊(社福)桐友学園 沼南育成園サポートセンター 様
＊(社福)豊田市社会福祉協議会 様
＊(社福)豊中愛和会 様
＊(社福)豊中愛和会 障がい者通所授産施設あすなろ 様
＊(社福)常陸青山会
障害者支援施設光風荘アネックス 様
＊(社福)菜の花会 しもふさ学園 様
＊(社福)長野県社会福祉事業団 水内荘 様
＊(社福)長野県社会福祉事業団 長野県西駒郷 様
＊(社福)長野県社会福祉事業団 ほっとワークス 様
＊(社福)長岡福祉会 長岡療育園 様
＊(社福)二之沢愛育会 群馬整肢療護園 様
＊(社福)日本肢体不自由児協会 様
＊(社福)日本心身障害児協会 島田療育センター 様
＊(社福)日本保育協会 福島県支部 様
＊(社福)のぞみの里福祉会 様
＊(社福)はるな郷 様
＊(社福)はるにれの里 厚田はまなす園 様
＊(社福)榛桐会 重症心身障害児(者)施設
はんな・さわらび療育園 様
＊(社福)パプテスト心身障害児(者)を守る会
重症心身障害児施設 久山療育園 様
＊(社福)飛山の里福祉会 様
＊(社福)福島県社会福祉協議会 様
＊(社福)芳香会 青嵐荘つくし園 様
＊(社福)芳香会 芳香会病院青嵐荘療育園 様
＊(社福)邦友会 なす療育園 様
＊(社福)都学園 様
＊(社福)三富福祉会 障害者支援施設白樺園 様
＊(社福)南東北福祉事業団 南東北さくら館 様
＊(社福)もちずりワーク 様
＊(社福)やおき福祉会
紀南障害者就業・生活支援センター 様
＊(社福)夕張市社会福祉協議会 様
＊(社福)勇成会 障害者支援施設ありすの杜 様
＊(社福)横須賀市社会福祉事業団
横須賀市立福祉援護センターかがみ田苑 様
＊(社福)陽山会 身体障害者療護施設大雅荘 様
＊(社福)若竹福祉会 様
＊NPO法人 かながわ障がい
ケアマネジメント従事者ネットワーク 様
＊NPO法人 こころん 様
＊NPO法人 骨形成不全症協会 様
＊NPO法人 山晃央園 様
＊NPO法人 ザ・ピープル 様
＊NPO法人 須賀の会 様
＊NPO法人 栃木県障害施設・事業協会 様
＊NPO法人 日本ボイタ協会 様
＊NPO法人 ひびき 様
＊NPO法人 ほほえみ 様
＊NPO法人 よろずやたきの会 様
＊いわき市保健福祉部障がい福祉課支援係 様
＊石狩市厚田支所 様
＊石狩市障がい者総合相談支援センターぷろっぷ 様
＊石狩市手をつなぐ育成会 様
＊石狩市手をつなぐ育成会ケアホームカリブ 様
＊石狩市保健福祉部 様
＊大阪知的障害者福祉協会 様
＊かえるの会 様
＊神奈川県教育委員会教育局支援教育部支援教育企画課 様
＊神奈川県民企画調整部 様
＊神奈川県保健福祉局福祉・次世代育成部 様
＊神奈川県立こども医療センター 様
＊神奈川県立ひばりが丘学園 様
＊神奈川県立三浦ふれあいの村 様
＊神奈川県立三浦しらとり園 様
＊神奈川県立横浜南養護学校 様
＊活水同窓会北九州支部 様
＊上伊那郡手をつなぐ育成会 様
＊北九州市立総合療育センター 様
＊木村眼科クリニック 様
＊岐阜県立希望ヶ丘学園 様
＊桐の会 様
＊群馬県立あさひ養護学校 様
＊群馬県立二葉養護学校 様
＊厚生労働省社会・援護局
障害保健福祉部企画課自立支援振興室 様
＊高齢化社会をよくする虹の仲間 様
＊高齢者総合ケアセンターこぶし園 様
＊駒ヶ根手をつなぐ育成会 様
＊静岡県立南部特別支援学校PTA一同 様
＊静岡南部特別支援学校 様
＊島根県立松江清心養護学校 様
＊障がい者就業・生活支援センターサンシティ 様
＊心身障害児総合医療療育センター 様
＊すみれ園 様
＊西部島根医療福祉センター 様
＊清風幼稚園 様
＊全国肢体不自由児者・父母の会連合会 様
＊全国肢体不自由児施設運営協議会 様
＊全国児童発達支援協議会 様
＊全国重症心身障害児(者)を守る会 様
＊全日本病院協会福島県支部 様
＊全日本手をつなぐ育成会 様
＊たきの会 様
＊筑波大学附属桐生ヶ丘特別支援学校 様
＊東京都知的障害者育成会 様
＊東部島根医療福祉センター 様
＊長野県立花田養護学校 様
＊西駒郷おやじの会 様
＊日本ALS協会福井支部 様
＊日本グループホーム学会 様
＊東日本国際大学福祉環境学部社会福祉学科 様
＊平塚市相談支援事業サンシティひらつか 様
＊平塚市地域作業所連絡会 様
＊平塚市福祉部 様
＊平塚市福祉部障がい福祉課 様
＊平塚市福祉部障がい福祉課地域生活支援 様
＊福岡県立粕屋新光園 様
＊福島県立郡山養護学校 様
＊福島県総合療育センター 様
＊福島県保健福祉部障がい福祉課 様
＊富士宮ボランティア 様
＊米海軍横須賀基地病院 様
＊第9回ボイタ医師研究会 様
＊北海道立旭川肢体不自由児総合療育センター 様
＊松江整肢学園 様
＊松江療育園 様
＊むらさき愛育園 様
＊山梨県あけぼの支援学校 様
＊山形県向陽園 様
＊山梨県立あけぼの医療福祉センター 様
＊横須賀市障害福祉課 様
＊横浜YMCA 様
＊横浜市健康福祉局障害福祉部障害企画課 様
＊立教女子学院短期大学 様
＊内郷キリスト福音教会 様
＊カトリック常磐湯本教会 様
＊郡山キリスト福音教会 様
＊渋川カトリック教会 様
＊全真言宗青年連盟 様
＊平キリスト福音教会 様
＊平パプテスト教会 様
＊天下茶屋教会 様
＊日本福音キリスト教会連合青梅キリスト教会 様
＊日本ホーリネス教団坂戸キリスト教会 様
＊日本キリスト改革派神戸長田教会 様

＊ハレルヤキッズ・スペシャル 様
＊前橋カトリック教会 様
＊アヌー 様
＊いわき乳食販売㈱ 様
＊いわきヤクルト販売㈱ 様
＊大塚製薬㈱仙台支店郡山出張所 様
＊上加木工 様
＊㈱あかね福祉郡山営業所 様
＊㈱アスカ 様
＊㈱イエローハットいわき大原店 様
＊㈱エイデル研究所 様
＊㈱学研ホールディングス 様
＊㈱くすりのマルト 様
＊㈱クレヨンハウス 様
＊㈱幸和・セーリング 様
＊㈱恒和薬品いわき第一営業所 様
＊㈱CDG東京本社 様
＊㈱シーアイエヌ 様
＊㈱末廣堂 様
＊㈱スターナイト 様
＊㈱チャイルド 様
＊㈱とらべるばーくオリバー 様
＊㈱ニチレイフーズ食品物流部 様
＊㈱バイタルネットいわき支店 様
＊㈱ハニーズ 様
＊㈱ふくしまフレーベル 様
＊㈱ムナカタ医科器械店 様
＊グローバルミッションセンター 様
＊グラクソ・スミスクライン㈱ 様
＊グラクソ・スミスクライン㈱ 東北支店福島営業所 様
＊ジャクエツ 様
＊たいら鶏卵事業協同組合 様
＊丹造水産㈱ 様
＊トリオ食品㈱ 様
＊日清医療食品㈱仙台支店営業部 様
＊ハーベスト・タイム・ミニストリーズ 様
＊ひまわり信用金庫 様
＊広越肉店 様
＊プラス㈱スマートスクール 様
＊松坂屋肉店 様
＊ヤマシタ住設 様
＊㈲いわき医療器械 様
＊㈲作田木工所 様
＊㈲キャッチボール 様
＊㈲Sプラニング 様
＊ユニリーバ・ジャパン 様
＊酪王牛乳㈱いわき営業所 様

＊青木由紀子 様
＊安孫子　栞 様
＊阿部　志郎 様
＊猪狩　忠 様
＊猪狩　豊 様
＊猪狩　春代 様
＊猪狩まさ子 様
＊伊藤恵美子 様
＊井上　健 様
＊今村　光枝 様
＊植原　明美 様
＊内記　達人 様
＊遠藤　文子 様
＊大谷　昭枝 様
＊大平　剛 様
＊大平ちあき 様
＊織田　孝裕 様
＊賀川　督明 様
＊岸田香津子 様
＊木田　健吾 様
＊北恵聖知之 様
＊木原拡茂・敏子 様
＊木原安子・喜子 様
＊金城　歩 様
＊後藤てるよ 様
＊酒井いさみ 様
＊坂本　葉月 様
＊坂本　義和 様
＊崎原キミ子 様
＊佐藤　哲也 様
＊佐藤　義彦 様
＊佐藤　吉郎 様
＊佐藤　満 様
＊渋木　綾子 様
＊島袋　栄喜 様
＊清水　敏雄 様
＊庄司　恵子 様
＊白石　真人 様
＊新藤優友・真由美 様
＊白石ヒロ子 様
＊志賀　実 様
＊末永　佳明 様
＊杉田　賢治 様
＊鈴木　裕 様
＊鈴木　清子 様
＊鈴木　利之 様
＊鈴木　亮子 様
＊関　宏之 様
＊高江洲義栄・文 様
＊高田恭三郎 様
＊高橋　秀行 様
＊故梅村綾子氏遺言執行者
高山芳明 様
＊田口　努 様
＊田中　知子 様
＊釣巻　敏康 様
＊土田　勝夫 様
＊出口貴美子 様
＊戸国　哲子 様
＊殿畑　和子 様
＊中尾　賢一 様
＊中川　弘子 様
＊中西　朋子 様
＊中林セツ子 様
＊永山盛士・まゆみ 様
＊西山　亨・純 様
＊根本　秀夫 様
＊箱崎康太郎 様
＊野口　義光 様
＊波多腰峰子 様
＊福田　淳 様
＊船越　泰子 様
＊古見　孝子 様
＊堀口　誠二 様
＊堀越　時雄 様
＊松原　航 様
＊三沢八重子 様
＊皆川由紀江 様
＊宮嶋　信 様
＊村上　静香 様
＊森根　信子 様
＊門馬　瞳 様
＊矢吹　綾乃 様
＊八巻　英雄 様
＊山田　優 様
＊吉野　正芳 様
＊リチャードホドソン・直実 様
＊渡辺　弘美 様
＊渡辺　康子 様
＊渡部　亜矢 様
＊藁谷　勝也 様

法人職員研修会について

去る九月八日、地球交流センター「大河内記念館」において、平成二十三年度、第一回法人職員研修会が開催された。今回は、東北大学名誉教授でありいわき福音協会理事でもある吉原賢二先生を講師に迎え、三月の東日本大震災による原発事故の影響による放射性物質の汚染、環境への影響が心配される中で「放射線・放射能の安全について」と題して講演が行われた。

現在のいわき市の放射能測定値は〇・二マイクロシーベルト以下であり、安全だとのこと。ICRPによる年間の安全基準は一ミリシーベルトだが、二年で二ミリシーベルトと蓄積されるのではなく、人間にはDNAよって修復機能があり再生されるので、それほど気に病む事はないとの話であった。自然放射線、X線等の医療被ばくによる人工放射線の外部被ばく、食物等から放射性物質を体内に入れる内部被ばくがあるが、あまり心配しすぎる事はないとのことであった。

ご多忙の中ありがとうございました。

車椅子寄贈受けました

この度、福島県社会福祉協議会を通して、株式会社ツルハホールディングス様よりカナン村とポポロに車椅子の寄贈がありました。利用者も大変喜んでおり、有効に使わせていただきます。誠にありがとうございました。

カナン村

ポポロ

平成22年度(2010年)　事業報告

1．平成22年度の標語

『賜物をお互いのために
役立てるべきである。』
—ペテロの第一の手紙４章10節—

2．事業の開始

(1) 事業所の開設

イ．事業の種類：共同生活援助（介護）事業所

A．東町ホーム　平成22年11月１日
利用定員：４名

B．みまやホーム　平成22年11月１日
利用定員：４名

ロ．事業の種類：生活介護事業所

A．事業所名：ポポロ
利用定員：20名

(2) 建物の新築

名　　称：障がい者福祉センターポポロ
設置場所：いわき市平下平窪二丁目１番地５
建物構造及び面積：木造合金メッキ鋼板ぶき
平家建382.14㎡
事業内容：①生活介護事業所ポポロ
②支援センターふくいんサブセンター
③地域生活する障がい者が集える場所
④地域住民との交流の場所

(3) 事業所の移転

事業所名：障害者総合生活支援センターふくいんサブセンター
移転場所：いわき市平下平窪二丁目１番地５
障がい者福祉センターポポロ内
事業開始日：平成22年12月27日

3．その他の事業

(1) 福祉有償運送・セダン等運転者講習会
実施事業所：シャローム

(2) 福島県障がい者ホームヘルパー等養成研修
福島県の委託を受けて実施

(3) 障がい者委託訓練事業（パソコン事務科）
福島県立浜高等技術専門校の委託を受け実施

(4) いわき市重度障がい児生活支援事業（福島県緊急雇用創出基金事業）

(5) 福島県共同受注マッチングセンター事業
福島県の委託を受けて実施

5．民間資金補助金等による事業

(1) 競輪公益資金による振興補助事業
助成団体：財団法人JKA
事業内容：特殊浴槽整備

(2) 福島県共同募金による平成２２年度配分金事業
助成団体：福島県共同募金会
事 業 名：避難道・訓練道整備事業

(3) 平成22年度障害者自立支援対策臨時特例基金
事 業 名：グループホーム等消防設備整備事業

(4) 日本財団助成事業
助成団体：㈶日本船舶振興会
事業内容：食品運搬車（冷凍車）整備事業

(5) 平成22年度社会福祉施設等耐震化整備事業

A．事業名：はまなす荘新築工事
平成22年11月30日完了

B．事業名：はまぎく荘スプリンクラー整備事業
平成22年11月30日完了

(6) 中央競馬馬主社会福祉財団助成事業
事 業 名：野の花ホーム個室等整備事業
平成22年７月31日完了

6．研修会の実施

(1) 新採用職員研修会
理事長、理事、施設長等を講師として実施

(2) 演題：うつ病を知っていますか？
～自殺予防のために～
講師：いわき市保健所　神白　翼　氏

(3) 職員勉強会　地域生活と仕事について
講師：各施設担当者

平成22年度社会福祉法人いわき福音協会財務報告

○貸借対照表【一般会計】

（単位：千円）

借方																
科目	合計額	本部会計	療護園（肢体）	療護園（重心）	野の花ホーム	はまなす荘	はまぎく荘	はまゆう	古館福祉ホーム	グループホーム	小島保育園	シャローム（支援）	シャローム（介護）	光の家	ふくいん（相談）	ポポロ
流動資産	503,575	47,467	80,296	43,854	71,913	81,675	52,269	7,969	2,775	70,164	17,312	5,839	2,921	15,710	2,311	1,100
固定資産	3,286,324	202,744	697,026	498,718	502,050	643,381	309,645	73,412	50,255	24,299	109,087	1,636	438	169,456	1,907	2,270
資産合計	3,789,899	250,211	777,322	542,572	573,963	725,056	361,914	81,381	53,030	94,463	126,399	7,475	3,359	185,166	4,218	3,370

貸方																
科目	合計額	本部会計	療護園（肢体）	療護園（重心）	野の花ホーム	はまなす荘	はまぎく荘	はまゆう	古館福祉ホーム	グループホーム	小島保育園	シャローム（支援）	シャローム（介護）	光の家	ふくいん（相談）	ポポロ
流動負債	139,495	24,006	32,364	14,649	27,674	8,094	8,197	2,076	504	9,358	6,160	926	80	3,677	723	1,007
固定負債	325,504	8,204	47,814	48,724	30,725	118,980	17,353	1,254	0	14,692	16,177	591	438	17,196	1,311	2,045
基本金	942,470	78,433	87,059	166,438	138,810	92,773	146,718	81,819	56,854	2,530	57,785	0	0	33,251	0	0
国庫補助金等特別積立金	1,015,274	211	141,061	62,079	193,006	373,884	91,623	12,704	14,361	3,077	12,506	0	0	110,762	0	0
その他の積立金	818,272	53,663	280,350	252,800	110,290	6,500	65,918	730	200	850	46,971	0	0	0	0	0
次期繰越活動収支差額	548,884	85,695	188,674	△ 2,119	73,458	124,826	32,105	△ 17,202	△ 18,889	63,956	△ 13,200	5,958	2,840	20,280	2,184	318
負債・純資産合計	3,789,899	250,212	777,322	542,571	573,963	725,057	361,914	81,381	53,030	94,463	126,399	7,475	3,358	185,166	4,218	3,370

○貸借対照表【就労支援会計】

（単位：千円）

借方					
科目	合計額	カナン村	つばさ(移行)	つばさ(A)	かがやき
流動資産	62,746	25,187	9,134	16,106	12,319
固定資産	228,369	184,665	4,273	8,886	30,545
資産合計	291,115	209,852	13,407	24,992	42,864

貸方					
科目	合計額	カナン村	つばさ(移行)	つばさ(A)	かがやき
流動負債	24,542	6,160	1,300	11,488	5,594
固定負債	34,874	22,273	2,039	4,359	6,203
基本金	63,110	63,110	0	0	0
国庫補助金等特別積立金	90,442	87,137	1,324	1,981	0
その他の積立金	42,438	36,438	0	0	6,000
次期繰越活動収支差額	35,709	△ 5,266	8,744	7,164	25,067
負債・純資産合計	291,115	209,852	13,407	24,992	42,864

○貸借対照表【公益事業会計】

（単位：千円）

借方			
科目	合計額	就業生活支援	居宅シャローム
流動資産	23,514	21,776	1,738
固定資産	3,208	1,971	1,237
資産合計	26,722	23,747	2,975

貸方			
科目	合計額	就業生活支援	居宅シャローム
流動負債	19,341	19,192	149
固定負債	3,048	1,812	1,236
基本金	0	0	0
国庫補助金等特別積立金	0	0	0
その他の積立金	0	0	0
次期繰越活動収支差額	4,333	2,744	1,589
負債・純資産合計	26,722	23,748	2,974

○貸借対照表【収益事業会計】

移送介護事業部

（単位：千円）

借方	
科目	金額
流動資産	601
固定資産	0
資産合計	601

貸方	
科目	金額
流動負債	173
固定負債	0
基本金	0
国庫補助金等特別積立金	0
その他の積立金	0
次期繰越活動収支差額	428
負債・純資産合計	601

○事業活動収支内訳表【一般会計】

（単位：千円）

科　　目	合　計	本部会計	療護園（肢体）	療護園（重心）	野の花ホーム	はまなす荘	はまぎく荘	はまゆう	古館福祉ホーム	グループホーム	小島保育園	シャローム（支援）	シャローム（介護）	光の家	ふくいん（相談）	ポポロ
事業活動収入計(1)	2,305,087	15,128	583,335	454,890	299,613	192,377	199,243	33,033	10,298	257,495	114,421	30,585	6,033	90,889	16,137	1,610
事業活動支出計(2)	2,261,924	56,866	578,362	439,428	281,601	216,611	171,306	36,738	10,536	216,078	112,656	29,298	4,382	86,533	15,851	5,678
事業活動収支差額(3)＝(1)－(2)	43,163	△ 41,738	4,973	15,462	18,012	△ 24,234	27,937	△ 3,705	△ 238	41,417	1,765	1,287	1,651	4,356	286	△ 4,068
事業活動外収入計(4)	106,416	97,367	2,539	237	52	101	50	2	49	13	88	1	1	1,765	1	4,150
事業活動外支出計(5)	105,073	20,640	9,120	16,169	12,028	636	8,168	0	48	30,000	3,000	0	0	5,264	0	0
事業活動外収支差額(6)＝(4)－(5)	1,343	76,727	△ 6,581	△ 15,932	△ 11,976	△ 535	△ 8,118	2	1	△ 29,987	△ 2,912	1	1	△ 3,499	1	4,150
経常経費収支差額(7)＝(3)＋(6)	44,506	34,989	△ 1,608	△ 470	6,036	△ 24,769	19,819	△ 3,703	△ 237	11,430	△ 1,147	1,288	1,652	857	287	82
特別収入計(8)	405,264	0	0	0	4,177	366,394	34,457	0	0	0	0	0	0	0	0	236
特別支出計(9)	472,812	0	31	28	13,987	421,254	35,424	0	0	1,774	244	13	0	57	0	0
特別収支差額(10)＝(8)－(9)	△ 67,548	0	△ 31	△ 28	△ 9,810	△ 54,860	△ 967	0	0	△ 1,774	△ 244	△ 13	0	△ 57	0	236
当期活動収支差額(11)＝(7)＋(10)	△ 23,042	34,989	△ 1,639	△ 498	△ 3,774	△ 79,629	18,852	△ 3,703	△ 237	9,656	△ 1,391	1,275	1,652	800	287	318
前期繰越活動収支差額(12)	409,127	3,706	190,314	△ 1,621	76,602	87,736	13,252	△ 13,499	△ 18,652	54,299	△ 10,260	4,683	1,190	19,480	1,897	0
当期末繰越活動収支差額(13)＝(11)＋(12)	386,085	38,695	188,675	△ 2,119	72,828	8,107	32,104	△ 17,202	△ 18,889	63,955	△ 11,651	5,958	2,842	20,280	2,184	318
基本金取崩額(14)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他の積立金取崩額(15)	180,848	47,000	0	0	17,129	116,719	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他の積立金積立額(16)	18,049	0	0	0	16,500	0	0	0	0	0	1,549	0	0	0	0	0
次期繰越活動収支差額(17)＝(13)＋(14)＋(15)－(16)	548,884	85,695	188,675	△ 2,119	73,457	124,826	32,104	△ 17,202	△ 18,889	63,955	△ 13,200	5,958	2,842	20,280	2,184	318

○資金収支内訳表【一般会計】

（単位：千円）

科　　目	合　計	本部会計	療護園（肢体）	療護園（重心）	野の花ホーム	はまなす荘	はまぎく荘	はまゆう	古館福祉ホーム	グループホーム	小島保育園	シャローム（支援）	シャローム（介護）	光の家	ふくいん（相談）	ポポロ
経常収入計(1)	2,358,843	112,403	572,709	448,663	292,563	183,662	191,780	31,060	9,168	257,254	113,442	30,586	6,033	87,622	16,138	5,760
経常支出計(2)	2,252,074	70,005	560,881	441,923	277,987	202,014	166,419	32,997	7,615	243,699	110,119	28,933	4,322	84,101	15,446	5,613
経常活動資金収支差額(3)＝(1)－(2)	106,769	42,398	11,828	6,740	14,576	△ 18,352	25,361	△ 1,937	1,553	13,555	3,323	1,653	1,711	3,521	692	147
施設整備等収入計(4)	405,264	0	0	0	4,177	366,394	34,457	0	0	0	0	0	0	0	0	236
施設整備等支出計(5)	695,603	85,220	413	1,513	17,151	539,527	47,974	0	0	2,878	501	0	0	190	0	236
施設整備等資金収支差額(6)＝(4)－(5)	△ 290,339	△ 85,220	△ 413	△ 1,513	△ 12,974	△ 173,133	△ 13,517	0	0	△ 2,878	△ 501	0	0	△ 190	0	0
財務収入計(7)	293,525	47,002	4,934	5,308	17,977	217,337	568	0	0	0	0	0	0	399	0	0
財務支出計(8)	42,759	1,953	5,499	4,734	19,395	1,673	1,444	192	1,050	1,268	2,806	157	60	2,276	197	55
財務活動資金収支差額(9)＝(7)－(8)	250,766	45,049	△ 565	574	△ 1,418	215,664	△ 876	△ 192	△ 1,050	△ 1,268	△ 2,806	△ 157	△ 60	△ 1,877	△ 197	△ 55
当期資金収支差額(10)＝(3)＋(6)＋(9)	67,196	2,227	10,850	5,801	184	24,179	10,968	△ 2,129	503	9,409	16	1,496	1,651	1,454	495	92
前期末支払資金残高(11)	296,884	21,234	37,082	23,404	44,054	49,402	33,103	8,022	1,769	51,397	11,136	3,418	1,190	10,579	1,094	0
当期末支払資金残高(10)＋(11)	364,080	23,461	47,932	29,205	44,238	73,581	44,071	5,893	2,272	60,806	11,152	4,914	2,841	12,033	1,589	92

○事業活動収支計算書【就労支援会計】

（単位：千円）

科　　目	合　計	カナン村	つばさ（移行）	つばさ（A）	かがやき
就労支援事業活動収入計(1)	123,562	1,224	3,433	108,093	10,812
就労支援事業活動支出計(2)	128,962	1,212	3,434	113,484	10,832
就労支援事業活動収支差額(3)＝(1)－(2)	△ 5,400	12	△ 1	△ 5,391	△ 20
福祉事業活動収入計(4)	258,663	139,622	22,333	26,359	70,349
福祉事業活動支出計(5)	255,468	140,135	21,469	30,258	63,606
福祉事業活動収支差額(6)＝(4)－(5)	3,195	△ 513	864	△ 3,899	6,743
事業活動外収入計(7)	10,106	418	1	9,201	486
事業活動外支出計(8)	13,671	4,000	0	71	9,600
事業活動外収支差額(9)＝(7)－(8)	△ 3,565	△ 3,582	1	9,130	△ 9,114
経常収支差額(10)＝(3)＋(6)＋(9)	△ 5,770	△ 4,083	864	△ 160	△ 2,391
特別収入計(11)	1,594	374	0	1,220	0
特別支出計(12)	1,643	364	17	1,262	0
特別収支差額(13)＝(11)－(12)	△ 49	10	△ 17	△ 42	0
当期活動収支差額(14)＝(10)＋(13)	△ 5,819	△ 4,073	847	△ 202	△ 2,391
前期繰越活動収支差額(15)	37,528	△ 5,193	7,897	7,366	27,458
当期末繰越活動収支差額(16)＝(14)＋(15)	31,709	△ 9,266	8,744	7,164	25,067
その他の積立金取崩収入(17)	4,000	4,000	0	0	0
その他の積立金積立額(18)	0	0	0	0	0
次期繰越活動収支差額(19)＝(16)＋(17)－(18)	35,709	△ 5,266	8,744	7,164	25,067

○資金収支計算書【就労支援会計】

（単位：千円）

科　　目	金　額	カナン村	つばさ（移行）	つばさ（A）	かがやき
就労支援事業収入計(1)	123,564	1,225	3,433	108,094	10,812
就労支援事業支出計(2)	128,964	1,212	3,435	113,485	10,832
授産事業活動資金収支差額(3)＝(1)－(2)	△ 5,400	13	△ 2	△ 5,391	△ 20
福祉事業収入計(4)	263,613	136,953	21,937	34,372	70,351
福祉事業支出計(5)	257,897	137,974	20,715	27,630	71,578
福祉事業活動資金収支差額(6)＝(4)－(5)	5,716	△ 1,021	1,222	6,742	△ 1,227
施設整備等収入計(7)	1,594	374	0	1,220	0
施設整備等支出計(8)	4,543	1,823	0	1,534	1,186
施設整備等資金収支差額(9)＝(7)－(8)	△ 2,949	△ 1,449	0	△ 314	△ 1,186
財務収入計(10)	4,001	4,000	0	1	0
財務支出計(11)	2,709	1,444	186	600	479
財務活動資金収支差額(12)＝(10)－(11)	1,292	2,556	△ 186	△ 599	△ 479
当期資金収支差額合計(13)＝(3)＋(6)＋(9)＋(12)	△ 1,341	99	1,034	438	△ 2,912
前期末支払資金残高(14)	39,545	18,929	6,799	4,179	9,638
当期末支払資金残高(15)＝(13)＋(14)	38,204	19,028	7,833	4,617	6,726

○事業活動収支計算書【公益事業会計】

（単位：千円）

科　　目	合　計	就業生活支援	居宅シャローム
事業活動収入計(1)	28,179	24,438	3,741
事業活動支出計(2)	30,708	24,357	6,351
事業活動収支差額(3)＝(1)－(2)	△ 2,529	81	△ 2,610
事業活動外収入計(4)	3,303	3	3,300
事業活動外支出計(5)	1	1	0
事業活動外収支差額(6)＝(4)－(5)	3,302	2	3,300
経常経費収支差額(7)＝(3)＋(6)	773	83	690
特別収入計(8)	0	0	0
特別支出計(9)	0	0	0
特別収支差額(10)＝(8)－(9)	0	0	0
当期活動収支差額(11)＝(7)＋(10)	773	83	690
前期繰越活動収支差額(12)	3,560	2,661	899
当期末繰越活動収支差額(13)＝(11)＋(12)	4,333	2,744	1,589
次期繰越活動収支差額(14)	4,333	2,744	1,589

○事業活動収支計算書【収益事業会計】

移送介護事業部　（単位：千円）

科　　目	金　額
事業活動収入計(1)	3,270
事業活動支出計(2)	2,255
事業活動収支差額(3)＝(1)－(2)	1,015
事業活動外収入計(4)	1
事業活動外支出計(5)	700
事業活動外収支差額(6)＝(4)－(5)	△ 699
経常経費収支差額(7)＝(3)＋(6)	316
特別収入計(8)	0
特別支出計(9)	0
特別収支差額(10)＝(8)－(9)	0
当期活動収支差額(11)＝(7)＋(10)	316
前期繰越活動収支差額(12)	112
当期末繰越活動収支差額(13)＝(11)＋(12)	428
次期繰越活動収支差額(14)	428

○資金収支計算書【公益事業会計】

（単位：千円）

科　　目	合　計	就業生活支援	居宅シャローム
経常収入計(1)	31,482	24,441	7,041
経常支出計(2)	30,266	23,991	6,275
経常活動資金収支差額(3)＝(1)－(2)	1,216	450	766
施設整備等収入計(4)	0	0	0
施設整備等支出計(5)	0	0	0
施設整備等資金収支差額(6)＝(4)－(5)	0	0	0
財務収入計(7)	0	0	0
財務支出計(8)	367	290	77
財務活動資金収支差額(9)＝(7)－(8)	△ 367	△ 290	△ 77
当期資金収支差額合計(10)＝(3)＋(6)＋(9)	849	160	689
前期末支払資金残高(11)	3,324	2,425	899
当期末支払資金残高(10)＋(11)	4,173	2,585	1,588

○資金収支計算書【収益事業会計】

移送介護事業部　（単位：千円）

	金　額
経常収入計(1)	3,271
経常支出計(2)	2,955
経常活動資金収支差額(3)＝(1)－(2)	316
施設整備等収入計(4)	0
施設整備等支出計(5)	0
施設整備等資金収支差額(6)＝(4)－(5)	0
財務収入計(7)	0
財務支出計(8)	0
財務活動資金収支差額(9)＝(7)－(8)	0
当期資金収支差額合計(10)＝(3)＋(6)＋(9)	316
前期末支払資金残高(11)	112
当期末支払資金残高(10)＋(11)	428